

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス
ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納
スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	天野貞祐
文學士	岩井勝二郎
文學博士	植田壽藏
文學士	白井二尙
文學博士	小島祐馬
文學博士	木村素衛
文學博士	九鬼周造
文學士	田邊元
文學士	中井正一
文學士	西谷啓治
文學博士	野上俊夫
文學博士	羽溪了諦
文學博士	波多野精一
文學士	服部英次郎
文學博士	本田義英
文學博士	山内得立

前 號 目 次

宗教・歴史・文化……………文學士 西谷 啓 治

知覺論第一部ゲシタルト心理學（承前）……………文學士 土井虎賀壽

空義より三性説へ……………文學士 長 尾 雅 人

告 會

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候
 京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
 ◆ 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵參參錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	一	金	四拾	金	壹錢
六冊	六	金	貳圓四拾	金	壹錢
十二冊	十二	金	四圓八拾	金	壹錢
		前金	四拾	不	受
		前金	八拾	不	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年一月廿五日印刷納本
 昭和十二年二月一日發行 第二百五十一號 第二十二卷

不許複製
 禁轉載

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發行所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五番
 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
 販賣所 京都市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣捌所

(東京) 寶文館 東海堂
 (大坂) 寶文館 上田屋
 (神戸) 寶文館 盛文館
 (京都) 寶文館 大川瀨書店 參文社

田中 熙 著

〔西哲叢書 各一冊〕
價一・二〇〇 税一・一〇四
四六クロス 約二八〇頁
コロタイプ 口繪一葉

マクス・シェーラー

マクス・シェーラーはフツセルの本質直観の方法を繼承し乍らも近代生命哲學と結びつき、精神的にして同時に衝動的、理性的にして同時に情感的、個人的にして同時に社會的なる現實の「人間」に就いて、宗教性や道徳性、情緒性や認識形態、社會性や身體性等々の凡ゆる事象を究明したのであつた。その思索はデモーニッシュで、その體系は「巨像」の様であつた。彼においては筈に、豊富な體驗、旺盛な生活力、良い記憶、鋭い直覺、深い思索、廣い組織力などが不思議な交錯をなしてゐたのである。今世紀初頭の哲學を一九二〇・三〇年代のそれらにまで指導し、且つ又、フツセル的「理性」の現象學をハイデッガー的「實存」の現象學にまで媒介した彼の功績を、吾々は忘れるべきでない。

目次 第一章 時代・生涯及び著作。第二章 哲學の概念、哲學の本質―知識の三形態。第三章 生命の形而上學、生誕―死。第四章 心情の論理、情緒生活に於ける階層―蓋恥―同情―愛。第五章 倫理學、快樂説及び形式主義との對立―實質的價值倫理學の基本構造―人格の概念―道徳意識の諸様相。第六章 認識論、實在性の體驗と認識―空間性・時間性及び因果性の起源―他我の認識。第七章 社會學、文化社會學―知識社會學。第八章 人間學、人間學の諸類型―哲學的人間學。跋。附録 著作及び文獻。

既刊

- ▲ヘーゲル 高山 岩男著
- ▲フツセル 下程 勇吉著
- ▲スピノザ 篁 實著
- ▲ソクラテス 後藤 孝弟著
- ▲シェーリング 勝田 守一著
- ▲プラトン 長澤 信壽著
- ▲ゲンケルマン 井島 勉著
- ▲ルソー 島 芳夫著
- ▲メーヌ・ド・ビラン 澤瀉 久敬著

新刊

(大正五年四月六日)昭和十二年一月廿五日印刷納本(毎月一回)
(第三種郵便物認可)昭和十二年二月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百五十一號 定價金四拾錢 郵税金壹錢

東京市寺町丸太町 替振 京都 一三二五番
東京市神田區駿河臺 替振 東京 三五九〇番

弘文堂

